

■神戸食文化研究事業 座談会

暮らしの歓びが食の原点

◇座談会出席者（敬称略・順不同）

石毛 直道 国立民族学博物館教授

有井 基 (神戸史学会代表代行)

奥村 彪生 (料理研究家・山手女子短期大学教授)

村上 和子 ジャーナリスト

松宮 隆男 (モロソフ株式会社 代表取締役)

諸岡 博熊 (UCCコーヒー博物館 館長)



松宮隆男さん



奥村彪生さん



石毛直道さん



諸岡博熊さん



村上和子さん



有井基さん

●グルメ・シンポジウム宣言文より一部抜粋

神戸グルメ・フェアは、食に関連する企業が力を結集し、神戸・兵庫の食文化に関する情報を全国に発信するとともに、業界ならびに地域の振興に寄与することを目的に開催しました。神戸の食に関連する企業が今日まで発展してきたのは、各企業の研鑽・努力とともに、恵まれた風土や神戸の食を正当に評価して、育ててきた賢明な消費者・市民、開放された明るい街としての外来の人々を温かく迎え入れる市民性があればこそであり、このことを忘れてはなりません。…中略…そこで、神戸グルメフェアの開催を機に、これらを推進していくための「グルメシティ神戸」を宣言し、官民一体となって神戸の食文化を発展させていくよう提唱します。

平成元年11月16日グルメ・シンポジウム参加者一同

一九八九年に京都・大阪・神戸の商工会議所が中心になってWFF(ワールド・ファッション・フェア)を企画する動きがありました。なかでも神戸は、すでに20年ほど前からファッション都市をめざしており、衣・食・住のすべてをファッションととらえる考え方が広がっていたので反応も早く、この年にグルメ都市宣言を行い、「食」をテーマとしたグルメフェアを実施しました。その後、「グルメディアKOBÉ」という新聞を発行するなど、食産業をはじめ、食の分野のさまざまな企業や店が神戸の食文化をPRしてきました。きょうはグルメシティ神戸の再生・復興をめざし、食文化研究委員の方々をはじめ、食に関する企業の代表者や学識経験者のみなさまに、神戸の食文化の総論・理念についてお話しただきましよう。

★大震災後に強まった本物志向

諸岡 グルメ都市神戸宣言は、ファッション都市といつても衣の分野に力を入れすぎているのではないかと思つたことが始まりでした。生活の楽しみ、なかでも食べに行く楽しみが似合う街、それが神戸ではないか、という発見でもあったのです。商工会議所やファッション協会の協力も得られるようになり、なんとかグルメ都市神戸が定着しつつあるかなというときにバブルが崩壊し、グルメに対する関心の在り方も変化しました。そして大震災で多くの飲食店が崩壊してしまつた。その復興も含めてもう一度、食を見直そうというのが今回の食文化研究の動きです。まずは、神戸に行くとき美味いものが食べられるぞと全国の人が思うようになっていきたいですね。

松宮 神戸の街は多くの外国人が住んでいるので、世界中の食べ物を見て、食べて、まねて作ってみて味を確認できる。神戸に行けばおいしいものが食べられる、ほつとする、楽しめる、この風土を守つていきたい、そういう思いがグルメ宣言に現れているのではないのでしょうか。食事に出かけるにしても、どんな服を着て、どんな会話をするのか、どんなテーブルクロスなのか、これら全てをファッションというのだと思います。生活文化全体がファッションですね。楽しい会話をしながら食事をしてもらえる、それが本当のグルメ都市であると理解しています。

村上 一九七六年に「KFR」、KFつまり神戸ファッション、Rは、料理、料理人という意味のグルーブを作りました。どういった素材をどのようにカットして、どのように組み合わせ、どのような色彩で作っていくのか、つまり洋服の仕立てと同じことが料理にも当てはまる。「料理もファッションである」と理解しはじめたのです。

食べ物、洋服と同じで、自己表現であると思います。洋服がその人の個性を発揮するように、食という視点か

らもその人らしさを表現できるのではないかと思います。震災で、神戸は本物の街であるということがわかりました。というのは、震災直後は食料のない日が続き、みんな空腹であつた。しばらくして、食べ物が買えるようになったとき、選んだものは、空腹を満たすだけのお弁当ではなく洋菓子だつた。かつての優雅な日々を思いだし、はやく元の生活を取り返したい、そういう思いが噴き出したのでしよう。神戸には心を満たす要素としてのグルメがあると実感しました。お店の側も、まずお客様に喜んでもらう、というプロ魂を理解するようになった気がします。

有井 私もこの時期に何がファッションか、と思つていました。いまま仮設住宅に十万人近い人が住み、野外のテントにまだ立ち直れない人がいる。しかしそこから立ち上がつて新しい街を作るソフト探しがさまざまな分野で行われている。食の分野でもいま再生ブランを持ちよることは大切だと思います。神戸は国際色豊かで、食材も多様な種類があるが、本当の味がするものがない。例えば、トマトの匂いのするトマトが南米でしか食べられないように。震災直後から、値段は高くてもかまわないからよいものを一品だけ欲しいというふうには価値感が変わってきた気がします。本来なら実用的で生活の役にたつものがいるはずなのに、いかにも神戸らしい視点で商品を選択し、購入する。そんな神戸の特性をつかんだ、個々の店が、地域の客と密接につながつて商売している。客もそうした店を応援し、支持する。だから、生活文化全体のなかで、食生活の原点を考え直さなといけなと思います。

★まちづくりに食文化のシステムを組み込もう

奥村 神戸の街は、店の内装とか、たたずまいを含めて舞台になる街です。客がお金を上手に使う街でもある。



(写真/左: 諸岡さん・右: 村上さん)

店は、客によつて選ばれ、客は、自分が選んだ店だから応援する。そういう関係が生まれ育っている。震災で店もかなりダメージを受け、今後復興していくわけですが、そのなかでも本物だけが立ち直ることができると思います。客を喜ばせるにはどうしたらよいか

ということに今まで以上に情緒と技術をそそぐようになりました。私は神戸の学生を教えているのですが、非常に味覚の幅が広い。常に色々なものを食べる機会があるからでしょう。色彩感覚もすどく、ファッションに強い興味をもっている。そのような良さが生活のなかに浸透している街であると感じますね。

石毛 神戸は日本における食文化の発信基地でした。ハイカラ神戸といわれてきたように新しいことを何でも受け入れる。ここは、港まちで、海外の人がやってきて住みつき、さまざまな食文化の情報や技術をもたらした。食材もはいつてくる。輸出もできる。しかし現在、世界的に港の機能が変わりつつあり、このままでは、港まち神戸の将来が危ない。そこで、神戸市民が日本の中でも食に対して質がいい人々であることに注目したいですね。最終的には、市民が街を支えていかなければならないのだから、そのためにも市民の食生活の質の良さを守

る仕掛けを作るべきだと思います。企業や店が個々に動くのではなく、都市全体としてグルメ都市神戸を盛り上げる案を考えなければならぬと思います。例えば、すばらしい料理人や食品界に貢献した人を、立派な市民として表彰していく制度や食の文化に関する公的な施設などができていいですね。

諸岡 街づくりの中に食文化のシステムを取り入れていき、企業もキャンペーンをはって盛り上げていくべきですね。観光とグルメを分けて考えず、都市として神戸をとらえ、そのなかにグルメやファッションをしつかり組み込ませる制度を作る一方で、グルメに関する教育制度も整えるべきでしょう。

村上 グルメメディア神戸のイベント内容は、大変良いのですが、意外と知られていない。つまり告知がうまくできていない。告知を広めるためには一般大衆が誰でも参加できるものでないとダメですね。今回第9回目となる洋菓子Kobe展ですが、洋菓子を視点として神戸のイメージを広くアピールし、全国からお客様に来てもらいたい、そんな気持ちで取り組みました。参加している菓子職人達は、技術的にもお互いに良い刺激を受け合っているようですし、このイベントで女性の職人達も育ってきました。

★市民みんなに食の教育を

有井 商店や食品産業だけに照準を合わせすぎているのではないのでしょうか。もちろん神戸の人は食について詳しい知識を持っているのですが、坂本廣子さんがやろうとしている、子供からお年寄りまでの料理教室など、幅広い目の向け方、アプローチの仕方を考えていくべきです。人の育成などの具体的な案、大学の設置もその一つですが、自分で料理ができて食品の基本知識くらいは少なくとも理解できる教育システムも考えていきたい。そ

れと、水。神戸では、酒をはじめ、洋菓子、あらゆる料理は、すべて天然ミネラルの神戸ウォーターから生まれだ。このおいしい水を守っていく努力、そして環境に対する働きかけをするべきで、街全体で、そのような取り組みをすることが食文化宣言の本来の意味だと思えます。

石毛 市場などに目を向けてみてはどうでしょうか。例えば、市場のなかにレストランを作り、いろいろな食材を自分で買ってきて、その場で料理してもらえるものができればおもしろい。公園などの施設を建設するにしても、水と熱とゴミ処理ができる場所をつくり、食材を持ち寄って、港を見ながら食事ができる。そのような施設を都市の中に組み込む案をぜひ考えて欲しい。それと人の問題です。つまり料理を作る人、サービスをやる人、客の三者が一体となった人の結びつき、それをどのように大きくしていくかが課題です。作り手やサービスをやる人がしっかりと組織化されていたら、いろいろなイベント展開ができるはずですよ。

奥村 食のイベントに関して言えば、今の段階では、食べて楽しいだけに終わっている。若者も呼べるようにしてもっとフェスティバル的なものができないだろうか。その一方で、家庭料理の復興、つまり家で作って楽しく食べることを基本においたグルメを考えていきたい。店から客に仕掛けるばかりではなく、家庭内でも地に足を付けた健全な食事を見つけない。そのためには食材から見直すべきです。本当の味のする食材をあたりにまえる食生活を取り入れていきたいなと思います。

石毛 神戸の食品産業の技術に付加価値をつけることが大切です。例えば農業でも好条件がそろっているの、いい野菜を作って、神戸マークをつけて売り出すなど、食材に目をむけた工夫もするべきではないでしょうか。

★主人と客の顔が見える工房のあるまちに

奥村 売れるものしか作らないのではなく、食生活も多様化しているのだから食材もそれに対応していかないといけない。ちゃんとした情報を付けて売らさないとダメです。

松宮 規格大量生産の世相のためにグルメがだんだん停滞しています。私は神戸の街は、工場ではなくて、工房が似合う街だと思います。神戸でやる気のある人や他の国の能力のある人にスペースを安い料金で貸してあげる。工房の街ができ、面白そうだから行ってみようという界中から人が集まってくるのではないのでしょうか。工房というのは、プロのわざや作っている主人の顔を見て商品を買って、作る側も客の顔を見ることが出来る。露店とか工房文化は、それだけでは食べていけないかもしれない



(写真左より)奥村さん・石毛さん・松宮さん・有井さん

いが、それが
あることによ
って何かが生
まれてくるの
ではないでし
ようか。神戸
の街は、自然
発生的なあや
しい街なんで
す。粹に、あ
やしく、彩っ
ぽく、客に喜
びを与えるこ
とができるこ
とが神戸らし
さです。

村上 震災の
体験で価値観
が変わりまし
た。客に喜ん

でもらうことが、無駄なことではなかったのだと理解できるところになったと思います。私たちが日本全国はもちろん、世界に向けてアビールでできるのは、新しい価値観で生きる市民の暮らしを食で見せる、それが神戸のビジネスの在り方ではないかと思えます。

松宮 これは工房の考えですが、ものを作る能力のあるクリエイターと技術を伝承できるマイスター、この二人を組み合わせて店頭に出せばいいのではないのでしょうか。

石毛 観光もそうですが、集會、例えば国際集會やイベントなどがあれば、いろいろな人々が集まってくる。そして集まった人たちが、お金を落とすしてくれる。それが本来の都市の姿でしょう。大量にものを生産して収支を担う工業社会の都市ではなく、未来型の都市というのはそうなくていくと思えますね。都市の魅力というの、混沌としたところにあるんです。理論整然とした病院みたいな都市になってしまうと面白くなくなってしまう。

有井 亡くなった風月堂の下村さんが路地裏の文化を提唱していました。今神戸には、ラビランスの魅力がない、だからとりあえず、自分のところの裏の路地に屋台でも出そうか、あるいは、ちよつとした空間を作ろうかと。ポトアイランドのファッションエリアでも食べるころがすくないでしょう。そんなところには、やっぱり人は集まらないですね。食べ物で人をつるのではないけれど、文化の中にも人々が本当



に楽しめるころがあれば、それが街だと思えます。神戸の肉でも最初は屋台が並んで、そこから一般家庭に普及していく。まずそのへんの原点を振り返ってみて、発想を切り替えることが必要だ、と話をしたことがあります。

村上 神戸の中で人気の店というのは、味処も含めて人間が中心のところですね。人がいて、その人の生きざまにひかれていく、そのようにして集まってきた人たちもまたその雰囲気を出し出し、お互いコミュニケーションして新たな風土が広がっているように思えますね。

松宮 もともとファッションとは、専門家が情報を知らない人に教え、ああそれいいなあと思ふことから始まっている。つまりファッション都市宣言をして経済を発展させるということは、人を喜ばせることが原点であるという考えに変えていくべきですね。

奥村 サービス精神が大事だということですね。どうしたら買ってもらえるか、喜んでもらえるか、そこに焦点をしなければならない。客を中心に考え、行動することが大切だと思います。今、大量生産型が、小型生産型に変わりつつある。かつて効率が良いからです。小さな場所で無駄なく製造する、つまり工房のことですが、いかなるものに対しても対応できるようなセンスと技術をもつことが効率の良さではないでしょうか。

石毛 神戸復興計画の行政面では、やはり食の都市・神戸を中心に考えていかなければいけないと思います。あまり効率にかたよりすぎるのも疑問です。これからの都市としての神戸の施設は、未来に対する財産なのですから早急で作るのではなく、じっくり計画を練って欲しいですね。

（3月11日神戸メリケンパークオリエンタルホテルで）

●神戸高校一〇〇周年を祝う／同窓会座談会

リベラルで豊かな個性が誇り

21世紀へ羽ばたく国際人を育てよう

■出席者（敬称略）

三木 康弘 〈神戸新聞取締役論説顧問 高3回生〉

米谷 收 〈京阪神興業株式会社取締役社長 高4回生〉

寺本 滉 〈株式会社淡路屋社長 高7回生〉

佐藤 梨栄 〈佐藤音楽事務所ベニー毛皮店代表取締役 高17回生〉

司会／小泉 美喜子 〈月刊神戸子編集長〉



米谷 收さん



三木 康弘さん



佐藤 梨栄さん



寺本 滉さん

★ハイカラでスマートな 高山校長の時代

小泉 神戸の名物高校・神戸高校が今年一〇〇周年を迎えます。おめでとうございます。今日は一〇〇年の歩みと二十一世紀の新しい教育像をお聞かせいただきたいと思います。まずは、皆さんの青春譜などを：

米谷 私は終戦直後の旧制最後の神戸一中なんです。で、中三の時に県一高女といっしょになって男女共学の新制神戸高校になりました。当時マッカーサーの命令で厳しい学制がひかれまして、灘に住む人だけが神戸高校に行ける、東灘の人は御影高校、というように分散させられた。そういった変化の大きな、混乱した思春期でした。この学制のせいで友人がいろんな土地に散らばったんですが、各地

に人脈ができたことを考えると学制の功罪は年月がたたないとわからな
いかもしれませんね。

小泉 男女共学のハシリなわけです
ね。

米谷 私は、在学中ある女性に、ぼくは一生タバコは吸わないと誓ったんです。その誓いが今だに続いています(笑)。そのせいか私の弟も、私の息子もタバコを吸わない。そう
いった意味もこめて母校にお返し
したいと思ひ、記念事業企画委員長
のお仕事をさせてもらっています。

★神戸高校の百年の青春を 浮き彫りにする記念史「百 年の青春」

寺本 僕は神戸高校の七回生です。

昭和二十七年の入学です。一〇〇年
間のうち七十七年間は校長先生は四
五人だけなんです。占領政策で二、
三年で校長が替わるようになりまし
たが、伝統を築いたのは、やはり最
初の七十七年でしようね。最後の方
の高山先生は十七年くらい勤められ
新制高校のカラーを作られたと思ひ
ます。私は、その高山先生の時代の
真つただ中にいました。

小泉 高山先生の校風というのはハ
イカラですね。

佐藤 私が高山時代の最後です。ス
マートでスケールの大きい人でした

ね。

寺本 ここに集まっている人は記念
事業の三つの柱の「記念史の刊行」

「記念行事」「研修会館などの建築事
業」をそれぞれ担当する人です。私
は記念行事の担当ですが、五月一日
の式典は震災の影響も考え、当初よ
り規模を縮小し、神戸文化ホールで
行いました。この中で、神戸高校の
卒業生で今、東京芸大の作曲科にい
らっしゃっている神本真理さんが式
典のために「夜明け」という楽曲を
作曲してくれたんです。彼女は高校
在学中にもピアノの即興演奏などで
伝説を作った人ですが、今度の式典
ですばらしい曲を演奏して下さいま
した。

三本 僕は百年史の刊行をやってる
んですが、これが三年前くらいに出
た話で最近やっと形をなしてきました。
三部構成で「学校編」「同窓会編」
「映像編」を一ケースに入れて「神戸
高校百年史」と名付けています。十
人くらいの編集委員でほぼ月一回集
まってやっています。同窓会編では「百
年の青春」というタイトルで各回生
から代表を選んで、学校の思い出を
書いてもらってますが、中には物故
者が出てらして、その方の生前の文
章を集めたりして、なるべく百年間
の母校の生活を浮き彫りにしようと
努力しています。「震災と同窓生」と
いう追加特集も組んでまして、市役

岸本忠生

神戸高校二十六回生

(株)開進 クエスト進学ゼミナール

取締役社長

神戸市灘区宮山町三十一一三
ロキタス阪急六甲二階
☎(〇七八)八七一・七八〇〇

高橋洋三

神戸高校十五回生

タカハシパール(株)

代表取締役副社長

神戸市中央区山本通一六二一〇
☎(〇七八)二二二・〇七五

佐藤淑郎

神戸高校二七回生

佐藤歯科医院

神戸市東灘区御影山手四一六一二四
☎(〇七八)八五一・八八五〇

寺本 滉

神戸高校七回生

株式会社 淡路屋

取締役社長

神戸市東灘区魚崎南町三丁目六番十八号
☎(〇七八)四五二・二六八二(代)

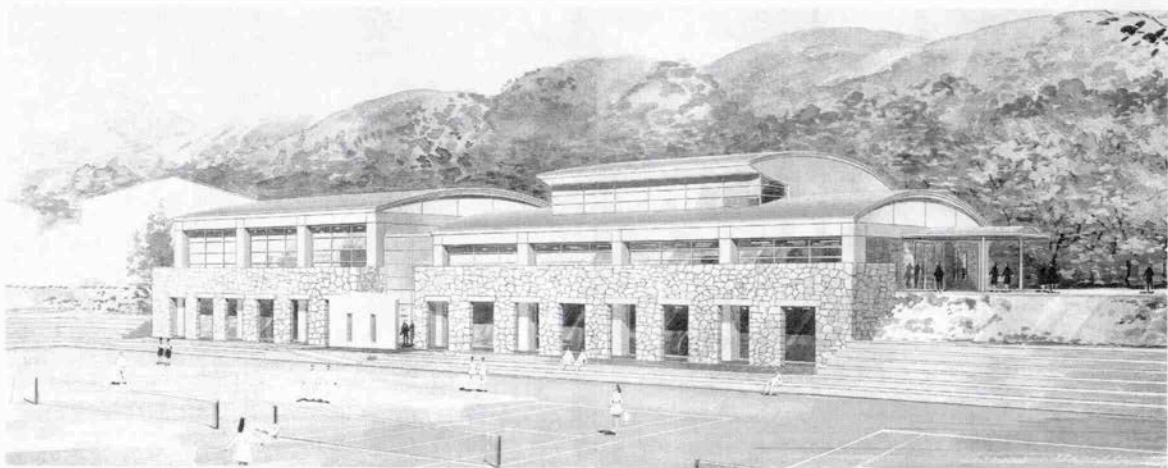
井堂信純

神戸高校十三回生

公認会計士 井堂信純事務所

税理士 所長

神戸市中央区海岸通八番神港ビルディング一階
☎(〇七八)三三三・〇七〇(代)



地域に広く開かれる一誠会館

所やマスコミ、関西電力や大阪ガス、N T T、ボランティアなど、震災と直面した同窓生の手記もまとめています。映像編には今度の式典なども入れました。

小泉 三木さんの時代はいかがでしたか。

三木 僕は三回生ですよ。ややこしいんですよ。

旧制で入って新制に切り替わった。でも、県一の人が入って来た時の印象はとてよく覚えてますよ。グラウンドに黒い服の集団が入ってくるのがカラスの行列みたいで、女性に慣れてないもんだからフオークダンスするのが恥かしいんですよ。(笑)。

寺本 その時のフオークダンスの相手がカミさんですよ。(笑)。

米谷 同期同士の結婚は多いですね。

佐藤 母も入れてうちは三代目(笑)。私は高校長時代の最後になりました。「質素剛健」一文

南 豊太郎

(神戸高校七回生)

日刊ゲンダイ大阪

専務取締役

〒大阪府北区兎我野町二十九 講談社ビル
 ☎(〇六) 三二五・八七五

渡邊 仁

(神戸高校二〇回生)

雑誌「神戸から」

編集長

〒神戸市中央区山本通二二二一
 アートボケットビル
 ☎(〇七八) 二二二・六四四

伊丹 威

(神戸高校十二回生)

甲南フーズ株式会社

代表取締役社長

〒神戸市東灘区御影塚町二九九一
 ☎(〇七八) 八四一・〇五五

井上 耕一

(神戸高校二八回生)

親光電機株式会社

専務取締役

〒神戸市西区高塚台二一五五
 ☎(〇七八) 二二二・四七四

宮田 裕士

(神戸高校三回生)

株式会社 宮田組

代表取締役社長

〒神戸市兵庫区荒田町二一
 ☎(〇七八) 五一・五〇五

武両道」という校風ですが、合唱部が盛んで外国に遠征に行ったり、サッカー部がインドネシアに行ったりと、勉強以外の分野も活発でした。当時はとにかく女性が少ない。三年生のフオークダンスに女子は二年生も狩り出されてました。トイレも、男女平等。身体検査は男女混合で(笑)、恥ずかしかったのを覚えてます。こうして話していますとお互いに卒業後の方が母校への思い入れが、強いですね。

寺本 占領政策というのは学区制などで学校差をなくそうという狙いのもとにされました。だから、先生も強制的にあちこちの学校へ赴いていかなければならなかった。学生もよそへと移されていった。それを今だにひきずってるわけですが、学校というのは、やはり特徴があつて誇りがあつて伝統があつて、それが個性である、と思います。平等平等という、どこの学校も同じになつてしまふのではないのでしょうか。だから、その後私学が伸びたのだと思うのですが。

★震災で培ったポランティア精神を、世界にむける人に育てたい！

小泉 個性を育てるという意味からも、これからの母校にかける夢や思

いをお聞かせ下さい。

寺本 今、校舎の取り壊し反対運動が起こつてますが、僕は伝統というのは校舎ではない、無形のものであると考えています。それを大事にするべきで、それぞれの学校がユニークな方向を発展させていくべきであつて、ませあわせて均一にするべきで



はないでしょう。

佐藤 子供にとつてのいい環境というのも考えてあげないといけないと思いますね。校舎を伝統として残してほしいという卒業生の声に対して、子供たちは伝統もいけれど、今を何とかしてくれと、思っています。そういう現場の声を大事にしたいな、

と思います。

米谷 私は建物よりも、国際交流基金を生かして二十一世紀の国際人を育てたいですね。震災で培ったポランティア精神を発展させて国際ポランティアへの意識を向上させてほしい。海外に出て外国のポランティアが何をしているかを見るだけでも将来への布石になるのではないだろうか。建物も、新しく建てる研修会館は多目的ホールなので地域における神戸高校としての役割を果たしてくれると思います。

三木 神戸市が姉妹都市の提携を結んでいる都市の高校生と交流できた方がいいですね。

米谷 それも、マルチメディア時代に対応したハードの整備ができれば可能ですね。リアルタイムで会議したりインターネットを活用した交流などが将来できるように設備投資も考えております。

三木 神戸の街にも外国人が沢山いるのに、交流が少ない。こういった足元からの国際交流を充実させることも必要でしょう。いま、神戸高校はいわゆる進学校、ガリ勉校でなくなつてるでしょう。僕は、これは非常にいいことだと思う。《高山リベラリズム》というのを、どんどん伸ばしていつてほしいと思っています。

〔北野坂にしむら珈琲店で〕

★ Oh! タカラヅカ対談 ★

TAKARAZUKA



人間のおもしろさが隠し味の ハードボイルドロマン



稔 幸

〈宝塚歌劇団・星組〉



麻路 さき

〈宝塚歌劇団・星組〉



正塚 晴彦

〈宝塚歌劇団・演出家〉

■ 宝塚歌劇星組公演「二人だけが悪」^{フル}

5月10日～6月17日

立ち込めるスモーク。ライトに照らされて浮かび上がる男と女。そんな洒落たポスターが、ハードな現代ロマンを感じさせる星組大劇場公演。

「二人だけが悪」のお稽古半ばに主演の麻路さきさんとライバル役の稔幸さん、演出の正塚晴彦さんについて話を伺った。

正塚 マリコ（麻路）とは仕事をしたことがなかったのですが、去年、マリコとあやか（白城）と話したときに、二人だけが悪いという話にしようかということになって。二人だけが悪いとみんなに言われているけれど、本当の愛情とか人間らしさは、二人だけの間にしかなかったという話ができあがった。

麻路 ポスター撮影のときから、先生の中でイメージはできあがってるなど思っていたんです。

正塚 タングを使いたいということが最初にあった。全体のトーンとしては褪せた感じ。錆びた町という感覚かな。タングを聞いたたりしていると、アルゼンチンのすごく大都会の部分もあるんだけど、ちよっと小さな道に入っていった感じもあって。挫折を知った男の話にしようと思った。

麻路 もっとクールな男だと思っていました。

正塚 あれでクールやねん。絶対に選択しなければいけないときに、選択できる人間。人生のいろんな岐路で、切りたくなくても、切らざるを得ないならば切る。そこでぐじゃぐじゃしてまずい方向にははまらないことがクールだと思う。頭の良い奴だね。

稔 わたしの役は、ソ連時代の変なKGBでマリコさんとは天敵。とこ



ろがCIAのレンハート(麻路)は何をやってもそつがなくて優等生。わたしもKGBでは優等生なんですけど、いつも負けてしまう。ソ連ではエリートであっても時代錯誤のところがある。自分の中にすごく正義はあるし実直だけど、現実社会ではずれがある。たまたま居合わせた事件にまたレンハートが現れる。

麻路 天敵は、どこにいても会ってしまふ。でも逆に似た者同士だから分かりあえる。

稔 だから、敵というより同じ穴のむじなのような感覚があつて、友情みたいなものも感じている。

麻路 ライバルと思つているところももちろんあるけれど、アレクセイ(稔)に自分を写しているところもあるんじゃないかな。

稔 レンハートのやることはすつきり決まつて、いつも一生懸命やつている私は悔しい思いをする。

麻路 そこがまた憎めないところ。レンハートは元CIAの人間で、自分で辞表をたたきつけてやめて、アルゼンチンで大使館に拾つてもらつた。女にも目を向けないタイプかと思うとそうでもない。結構、チョコ

チョコ追いかけて回っている。仕事の癖でなにかありそうだなと思つたらどんだん首を突つ込んでいく。性格的にもおもしろい人間。作者が主人公をこう動かしたいと思う部分、それがオリジナルのおもしろさなんですよ。全クストーリーも知らない、見たこともない人間を演じる。お客様にも先人観がないし、わたしの演技方でその人間の色が決まるから、



できるだけ先生とデイスカッションしながら人間像を作り上げていきたいと思います。

正塚 自己投影とよく言われるけれど、そんなわけではない。いままで自分がいろいろ見たり聞いたりして、カッコイイと思つたことを咀嚼してトータルに作ろうとしている。アジア(白城)は結構芯は強い。根本

的に女性はそういうものだと思うんだけど。アジアはしっかりしたものを持つているんだけど、ちよつと勇気をなくしている。いろんな経験があつて、その中でつらい部分が消えてくれないかと思えるだけおとなしくしている。それがレンハートと出会つて変わる。

麻路 ニさんなのにタンゲラ(酒場)で踊っているから人間的にどういう人が興味をもつたんでしょうね。

正塚 単純に「いい女だ」。それだけの感覚。それが全然予想してない格好で次に会つて興味がわく。

麻路 ひとめ惚れみたい。

正塚 ひとめ惚れまではいかないだろうけど、そのままコンタクトする機会があればころが傾いていく。男はそんなもの。

麻路 お人柄も見ないうちに、とか言つて。その辺の感覚が女性と違うような気がする。私ならしゃべつてみてからかと思ひますよ。

正塚 人柄なんて、少々つきあつたつて見えないんだから。ぱつと見るとなんとなくわかるじゃない。

稔 ハイテンポだし、台詞の量が多いですよね。コスチュームブレイの



倍はしゃべっている。

麻路 普通の会話とまるで同じ。人の言葉にかぶさっていくし、聞いたらすぐ返している。これまでそういうリアル感より、見せる芝居の系統が多かったし、人間的にも、わりとスキが無い、転ぶこともしないんじゃないかというタイプが多かった。レンハートは、そういう意味でとても人間っぽい。

正塚 結構ドジだよ。こけてもごまかせる。

稔 構えて見せてやってきたところを、絶対構えるなど言われる戸惑い

が最初はありません。男の人が好きな系統の専門用語がいっぱい出てくるから、耳馴染みがあまりないけれど、それをクリアしちゃうと案外簡単だと思う。私自身、一時スパイ小説とかハードボイルドとかはまって読んでいましたし。

麻路 アンタッチャブルみたいな映画は大好き。考えたら、映画だと字幕のむつかしい専門用語や歴史的背景が分からなくて通りすぎていっても、ストーリーに引きつけられて途中からいゝんなことが分かってくる。

それでも見終わった後には良い映画

だったと思う。そんな風になったらいいかな。

稔 人物像をとでも大切にした作品ですね。ゲリラの中でも一人一人のキャラクターが全然違うし、その辺もおもしろい。

麻路 どこかに納まることができないう男の人がいる。それが女の人の存在で変わっていく、ということもおもしろいと思う。

稔 びしっと芝居が締まるように口シア人として頑張ります。

正塚 今回は盆回しでおもしろい転換を組んでいる。通常の盆の上にな

らに盆を組んで、その角度の違いで町並みや部屋の内外の変化をつけていく。話の進め方とシーンでテンポをつけていく。映像的だと言われると思う。

麻路 この場面のこのおもしろさを見たい。わかっているけどどうしても笑ってしまうというタイプのおもしろさがいっぱい隠れているので、それをたくさん見つけていただきたいと思います。

(構成・瀬川直子)



神戸の真珠をジュエリーとして 完成させるのが夢です

くデザイナー ニノ・ヴェリータ氏インタビュー



昨年、木下真珠と提携したイタリアのジュエリーデザイナー・ニノ・ヴェリータ氏がコレクションの発表のため初来神。

自国イタリアではジュエリーメーカーの経営と、自らのコレクションのデザイナー

を務める氏にインタビュー。神戸の真珠にかける夢を語ってもらった。

―神戸は初めてということですが。

NINO 日本は3回目ですが、神戸はこれが、初めてです。実は木下副社長は震災の時イタリアに来ていたので、他人事ではなく、複雑な気持ちです。でも、街を歩いていると、道路も直っています、震災を感じさせないので、驚いています。

―木下真珠と、昨年、提携されましたが、どういったきっかけだったのですか。

NINO それまで、日本とは仕事では縁がなかったんですが、友人が縁結びをしてくれました。

―日本で、ご自分のデザインされたジュエリーが発売されることについて。

NINO 日本女性が、近年欧米へ旅行などで行かれる機会が増えて、世界のジュエリーに対する理解を深めてらっしゃるように思います。私自身、日本人むぎのものを、というのは気持ちの上ではありますが、ジュエリー本来の気持ちは失いたくないと考えています。どのような時代、どんな国かに関係なく、ジュエリーデザイナー・ジュエリーメーカーとしての姿勢は関係なく、持っていたいですね。今回木下真珠さんとの提携によって、日本の美しい真珠とイタリアの宝石のあり方の二つを融合させたいと考えています。

―非常に華麗で、しかもロマンティックなデザインですが、イメージはどのようなにして得ていますか。

NINO ジュエリーデザイナーというものは、みなそうですが、いつもいつも朝からデザインばかり書いているわけはありません。時として、自分の心にイ

メージがあがってきた時にデザインを描く。それは、今までの生活、人生の想いの中自分のコレクションがあつて、それが強くわいた時にデザインとなります。それが、描いた時には人々に受け入れられるかどうかは気にしません。あとは、そのイメージをいかに商品に結び付けるか、です。不思議なもので、いいデザインが描ける時というのは悲しかったり、おちこんでる時なんです。結果論なんです、そしてアイデアが出るのでは。

―神戸でジュエリーデザイナーとして、活動されていくなかで夢みたいなものがあれば、お聞かせ下さい。

NINO 神戸は真珠の世界的中心地です。神戸の真珠と一緒に、ジュエリーを作り上げていけることになって、これからの人生は真珠をジュエリーとして使うことを完成させたい。真珠をジュエリーとして使うのは素晴らしいことです。

―神戸のみなさんにメッセージを。

NINO 私自身、以前故郷のヴァレンツァの市会議員を務めたこともあり、なので、そういった意味でも、神戸の復興には関心があります。震災前より、いい街になるように願っています。



木下真珠社長と。終始穏やかな微笑みをたやさないヴェリータ氏

イタリア、華やく。
ニノ・ヴェリータ

WHOLESALE & EXPORTER of Cultured Pearls



KINOSHITA
PEARL
CO.,LTD.

パールサロン神戸

〒650神戸市中央区山本通1-7-7(北野坂)

TEL : 078-221-3170・9426

FAX : 078-221-9427

★規制緩和で市場開放をうながすエンタープライズゾーン

小室 地震のときはどちらに？

大角 北区の神戸北町です。翌朝トンネルが通じたので市街地に出てみました。ひどいものでしたが、50年前の震災と違って人や自動車は動いているし国内外には味方がいます。復興は比較的早いだろうと思いましたが。ただし産業の復興を除いて。

小室 というのは？

大角 兵庫県の660の復興プロジェクトを私なりに分類して検討したんです。産業の復興以外、つまりインフラ、住宅、街づくりなどは公共事業として行政の努力次第である程度達成できるでしょう。ただ産業復興に関しては、行政の役割はその舞台づくりだけです。その成果は、内外の企業がどれだけ舞台に参加するかによって左右されますからね。

小室 よほど魅力のある舞台でなければなりません、例えばどんなものでしょう。

大角 エンタープライズゾーンや、KIMEC（神戸国際マルチメディア文化都市）、三木市の東播磨情報公園都市などはビジネススマン



大角晴康副理事長



小室豊允教授

●小室豊允の《夢対談》

“新世紀を語る”

大角晴康（財）阪神・淡路産業復興推進機構副理事長

小室豊允（姫路獨協大学教授）

神戸の文化を活かし

日本の未来を拓く産業復興を



小室豊允さんと大角晴康さん

の魅力こそぞると思えます。
小室 エンタープライズゾーンについては規制緩和と税制の優遇措置が不可欠ですね。

大角 地元の努力もさることながら、国の決断が望まれます。エンタープライズゾーンが実現すれば、全体の復興に対しての起爆性や波及効果はかなり高いでしょう。
小室 行政を押し切るにはいまの政治では力不足ですね。

★国全体の産業構造の転換を

大角 超円高さえなければ震災以

前の産業を復旧すればそれが復興につながったのですが、いまや新しい産業構造の転換を図らなければ復興にはなりません。私が長年生活したアメリカとカナダ、ドイツは連邦国家だったので、そこから見ると経済的には先進国になったとはいえ日本の中央集権システムはまだ秩序と効率優先の発展途上国型です。システム疲労はかなり進んでいるように思います。

小室 オイルショックのときに求められたのは油ではなく、実はそのシステムの転換だったんですよね。円高や地震がなくても問題は山積みだったんですよ。

大角 古いシステムに一撃を加えずにはいけません。このチャンスに「規制緩和と市場開放」という国の政策を被災地の復興計画として盛り込んでほしいですね。

小室 中央はこれまで地方を保護して利益を与えるかわりに規制を強いてきました。地震後は利益も与えずに規制を強いています。私はいまの不況を「規制不況」と見ています。

大角 なるほど(笑)。

★神戸にハイテク新産業を

大角 地震の前後からマルチメディアやインターネットという言葉が流行していますね。これらの産業は有史以来の大変化をもたらすかも知れません。

小室 バイオ産業や、健康、福祉、教育、環境といったライフインダストリーも重要です。

大角 もちろんです。他にファッションや輸入住宅も神戸の特産品になればいいですね。衣食住プラス文化的で知的な生活、これらが足りてこそ礼節を知る、ですよ。前向きでハイカラな神戸は、広い土地を必要としない新しい産業が似合う街です。

小室 ニュージールランドでは国を挙げて「静かなる革命」として規制緩和を進めていますね。

大角 「賑やかな革命」でもいいんです(笑)。私は2年前に大阪から神戸に職場を移した途端に地震に遭ったのですが、これも天命と認めてできるだけのことはしたいですね。

小室 えらいときに来られましたね(笑)。(北野クラブで)

■財団法人 阪神・淡路産業復興推進機構

神戸市中央区中町通2・1・18

日本生命神戸駅前ビル11階

TEL078・360・1058

藤本
統紀子の
おしゃれ対談

21世紀は「地球」の時代
自然との共生を

増澤

空むなし

（株）エイラ代表取締役社長

VS

藤本統紀子

（エッセイスト）



「カリヨンハウスやカリヨンファームで野外活動を」と増澤空さん。映画から環境、教育問題まで、話がはずむ

★「眠る男」をバックアップ

藤本 「眠る男」を見て、まず映像の美しさ、そして群馬県という自治体が製作したということに驚きました。

増澤 新しい「風景画」ですね。ゆったりした台詞と時間の流れ…。毎日あくせくと生活していることへの問題提起ですね。深く考えると、自治体側にも矢を向けていることになるのかも知れません。

藤本 眠る男を自宅で介護する家族の姿に感銘を受けました。移り変わる季節の中、風景の一要素として人間がいるんですね。

増澤 今では珍しくなりましたが、ほとんどのシーンを話の順番どおりに撮影してらんですよ。

藤本 ぜいたくな映画ですね。

増澤 いろんなエピソードが集まって映画になっている。しかも全体のための個ではなく、それぞれ独立していますよね。

藤本 どこを取っても意味があつて絵になってますね。豊かな自然

6月8日から京阪神で公開される映画「眠る男」（小栗康平監督）のプロデュースを務めた増澤空さん

んと、京阪神上映ネットワーク呼び掛けた藤本統紀子さんにお話をいただきました。



藤本統紀子さん

増澤 京阪神上映ネットワークの旗揚げ記者会見の前日まで、インドネシアに行っておられたとか。
 藤本 野焼きをしている横を通ると、混じりつ気のないワラだけが燃える匂いがあるんですよ。日本人が忘れてしまった匂いですね。
 増澤 私は震災の前々日にベトナムから帰ってきました(笑)。今年3月にもまた行つたんですが、田舎へ行くと竹でできた家でビデオを見ていたりする。携帯電話やパソコンもあるんです。なのに一日



増澤空さん

描写に、思わず深呼吸したくなりました(笑)。多くの人に見てもらいたいですね。

★自然環境を子どもたちに残そう

かけてゆつたりと田んぼに水を汲んだりもするんです。

藤本 現代と前近代が同居していて、その中間がないんですね。

増澤 環境破壊も進んでいて、日本が輸入するエビの養殖場をつくるためマングローブが伐採されたりしています。われわれ「ティエラ」は、マングローブの植林を支援するためのエコパーク(環境公園)をつくらうと計画しています。大人がやってきたことのツケを子どもに回してはいけませんから。

★「教えない教育」を

藤本 「ティエラ」ってどういう意味なんですか。

増澤 スペイン語で「大地」とか「地球」という意味です。単なる学習塾ではなく、民間の教育機関として地球サイズの活動をしていきたいですね。去年おこなった「ジュニアサミットキャンプ」では、イスラエルとパレスチナの子供たちを日本に呼んだんですよ。

藤本 民間ならではの交流ですね。外国へ行くだけでなく、日本に来てもらうことも大切ですよ。

増澤 学校教育にはない自由な感覚でやっていきたいですね。国際交流や野外活動を行っている岡山県牛窓のカリヨンハウスに今、天文台を作ってるんです。阿蘇にて

きるカリヨンファームでは牧場体験をします。海と山で活動の範囲はこれからもっと広がるでしょう。藤本 ふだんの教室はどんな感じなんですか。

増澤 教室は週1回で、自分で計画を立ててやる姿勢を育てます。本当に身に付くのは一人で考えるときだと思っんですよ。

藤本 神戸製鋼ラグビー部も、練習は毎日しないで、一人で考える時間を大切にしているそうですね。増澤 教えないことが重要なんです。それから負の体験。早い時期に失敗や挫折を体験すると、本当の協調とは何かがわかるでしょう。だから合宿での体験学習を重視しています。

藤本 自然との共生で、その怖さと素晴らしさを体感できますよね。増澤 自然の中では親より子ども供のほうが優秀だったりして、親子同士の再発見も多いですよ。藤本 親はうちの子は駄目だと思いがちですけど、外ではちゃんとやってるんですよ。



株式会社 ティエラ

〒650神戸市中央区東川崎町1-3-3
 神戸ハーバーランドセンタービル19F
 TEL.078-371-1565
 FAX.078-371-6134



KOBE EXCELLENT FASHION



LIZA

リザ・サロン神戸本店 1周年記念

Anniversary Fair

6月1日(土)～11日(火)

コルディアの受注会

CORDIER AUTHENTIC

(’96コルディア オーセンティック)

6/1(土)～9日(日)

’96コルディア オーセンティックコレクションは、素材・カットイング・縫製に最高のクオリティを求めています。

濃淡のグラデーションによるモノクローム(単色)の展開、ポイントカラーのグレー、ブライトカラーのトレンドも継続しています。

また、カシミアのツインニットのこだわり、ゆとりと着やすさに工夫、インナーと柄物のバリエーションも豊富に取り揃っております。

“ひと足早く、秋の装いをリザ・サロンで…お楽しみ下さいませ”

リザ・サロン神戸本店アドバイザー一同

※定休日は毎週水曜日です

モデル/良河文代さん(お客さま)
撮影場所/リザ・サロン神戸本店6F
カメラ/米田英男

KOBE EXCELLENT SHOP



LIZA

神戸市中央区三宮町2丁目6-1 ☎391-6806

★婦人帽子

maxim マキシン


神戸市中央区北長狭通2丁目6-13 ☎331-6711
(トアロード)
全国有名百貨店婦人帽子売場

★神戸唯一のボルボネーゼータルブティック

 **Borbo**
SALON DE BOUTIQUE

神戸市中央区元町通3丁目1-12 ☎391-0014

★伝わる真ごころ最高の風格

 **柴田音吉洋装店**

神戸市中央区元町通3丁目1-17 ☎334-2250

★よろず御機織縫上處

神戸シャリ

神戸市中央区三宮町3丁目1-6 ☎331-2168

★選りすぐった一点を…

Sanohe

神戸市中央区元町通2丁目5-7 ☎331-4707

※このシリーズは上記の専門店の提供によるものです。



人は、大自然に育まれます。

六年根紅蔘[®]
せい かん しょう
正官庄

- 正官庄高麗蔘製品の原料は厳しい管理のもとに栽培された高品質の六年根紅蔘です。
 - 正官庄高麗蔘製品には原形そのままの高麗蔘をはじめ、服用しやすく、携帯に便利な錠剤、粉末、カプセル、エキスなど各種の製剤があります。
- 近代的医薬品として皆さまの健康の維持・正常化にお役立てください。



正官庄高麗蔘製品 **医薬品**

効能・効果 次の場合の滋養強壮

虚弱体質 肉体疲労 病中・病後
胃腸虚弱 食欲不振 血色不良
冷え症 発育期

※ただし「高麗蔘(原形)」「切片高麗蔘」「蔘内服液」は「発育期」を除く。

※ご使用の際には説明書をよく読んで正しくお使いください。

●輸入元/日韓高麗人蔘株式会社 神戸市中央区元町通3丁目11番10号 ●製造元/大韓民国煙草人蔘公社

資料請求券
K-5-6

資料をご希望の方はハガキに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記のうえ、資料請求券を貼付し日韓高麗人蔘株式会社消費者課までお送りください。お問い合わせ先 フリーダイヤル 0120-227767



更年期障害に有効率 82%の六年根紅蔘

薬学博士 寒川 慶一

女性の一生にとって更年期は、重要な曲がり角といえます。

更年期（個人差がありますが、普通は30歳代後半から50歳代の半ばまで）にさしかかると、卵巣の機能が徐々に衰え、卵巣でつくられるホルモンの量が減ってきます。その連鎖反応で体内のホルモンの変動が起こり、更年期女性の約70%の人に、ホットフラッシュとよばれる顔や体の急激な熱感、のぼせ、めまい、動悸、異常発汗、手足の冷え、頭痛、肩こりなどの、更年期障害の症状が現わ



寒川慶一博士

れてきます。ホルモンの変動は神経の働きとも密接な関係があり、不安感、抑うつ感、不眠、イライラなども起こります。

西洋医学では、更年期障害に対して、卵巣機能の衰えで不足する女性ホルモンを外からの注射で補い、体内のホルモンの変動を以前の状態に戻す治療法が行われています。この療法で効果のある場合もあります。が、医師が判断に迷うのは、そのホルモン療法をいつ止めるかです。

中断すれば症状がぶり返すおそれがあります。しかし、その長期投与による副作用は深刻な問題で、まれに乳ガンや子宮ガンの発生をみることもあり、漫然とホルモン療法を続けるわけにはいきません。

更年期障害には、高麗人蔘の六年根をいったん蒸して乾燥した紅蔘が大変よく効きます。私も共同研究者の一人ですが、大阪市立大学産婦人科の荻田幸雄教授を中心とした研究グループでは、更年期障害の患者さ

ん72名に紅蔘（「正官庄」製品）を服用してもらい、体内の性ホルモンや症状の改善度を調査しました。

その結果、紅蔘を服用すると卵巣ホルモンの増加傾向がみられ、更年期障害の原因であるホルモンの変動が緩和されることが明らかになりました。更年期のホルモン変動は誰にでも起こりますが、それがスローに進行すれば、体がその変化に順応できますから、症状を防ぐことができず。紅蔘には、血液循環をよくする作用がありますから、卵巣の血流が増大して、衰えかけた卵巣の機能が再び元気づけられるのです。

紅蔘には、自律神経の働きをよくする作用もあり、自覚症状も大幅に改善されます。紅蔘1ヵ月の服用で72名中59名の方の、のぼせ、冷えなど更年期障害特有の症状が治つたり、軽度になりました。その有効率は82%です。

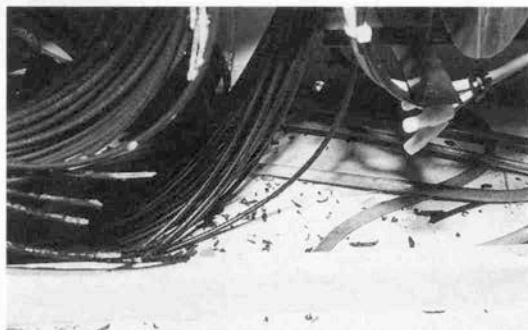
紅蔘は服み続けても副作用はなく、更年期以降の女性に急増する動脈硬化症の予防にもなります。更年期障害の方は気分がふさがちですが、治療のカギになるのは健康を維持していくという前向きな気持ちです。そのためにも、紅蔘をお勧めします。

（寒川慶一博士へのご相談はフリーダイヤル〇二二〇一三二七七六七）

●チュー害シリーズ

鼠のいたずらといやがらせ

鼠による被害は衛生的鼠害と経済的鼠害に大別され、日本でも外国でも伝染病や農林業の鼠害の対策に何百億という費用を掛けている。これらの大きな鼠害とは別に、昔から民家や倉庫や店舗で、ものをかじったり、あばれたりして問題になっている。人形の鼻を噛み切ったり、店先に積み上げてある衣料品や食料品をかじったりと愛嬌のあるいたずらなら笑ってすませるが、そのいたずらを止めようと人形をガラスケースに入れたり、食料品や衣料品を片付けると鼠のいやがらせが起こる。おしっこをかけた、大切なものをこわしたり大暴れる。



鼠による光ファイバーの被害

ある飲食ビルの会議室で年末の売出しのため残業がつづき、毎日最後には夜食やビールのおつまみが出ていたが、後片付けをしていなかった。そのうち鼠の糞が落ちていたのに気づき、夜食をやめた所、皮張りの椅子がかじられたり、本に小便をかけられたりで大騒ぎになった。鼠が出た時の処理は慎重にせねばならない。鼠は糞をどこにでもするので通った所に点々と落ちていたが、小便は臭いも強く、ばい菌もたくさんいて、鼠に

とっても危険なのでする場所はきまっている。物品に鼠が小便をかけるのはいやがらせである。鼠とりのかごや殺鼠剤にもよく小便をかけているが、これは仲間に対する警告らしい。

鼠の被害も経済の高度成長につれ、民家からビルへ、店舗や倉庫から百貨店や地下街へとその行動範囲も広がり、被害の対象も食品や衣料品から電線、コンピュータ、通信ケーブル、さらに光ファイバーへと広がってきている。最近ビル内の電気関係の配線は全部鋼管の中を通すか、忌避剤のナラマイシン塗料で保護されている。家庭内の電線はまだビニール線のままだが、今回の地震により、民家の電線も鼠の被害をうけていることが分かった。倒壊した家のスイッチボックスの後ろに鼠の巣があり、鼠の子供が3匹はさまれて死んでいた。ティッシュペーパーやタオルや木くずをとりのぞいた所、電線が鼠によりかじられて裸になっているのが見つかった。消防署の方に見せると、「昔から電線の回りは暖かいのでよく鼠が巣をつくっている。電流が通っている裸の電線に鼠が小便をかけるると発火する。回りに紙くずや木くずがあると火災の原因になる」と言われた。

鼠のいたずらで電線やケーブルがかじられ、新幹線やポートライナーが止まったり、銀行のオンラインが止まったこともある。



サンヨー環境株式会社

社長 田中正郎

(神戸大学医学部医動物学教室非常勤講師)

兵庫県ベストコントロール協会/健康住宅推進協議会



サンヨー環境株式会社

〒652 神戸市兵庫区島上町2-1-27リッツ島上
TEL (078) 672-0330(代表) FAX (078) 672-1010